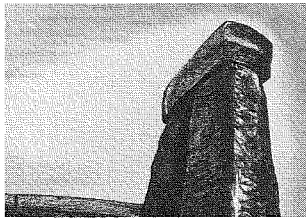


展示室1 小特集：ヘンリー・ムーアの版画



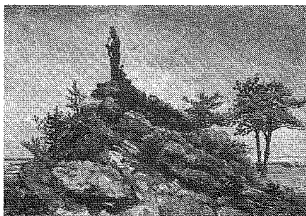
ヘンリー・ムーア
『ストーン・ヘンジ』より

現代イギリス彫刻を国際的なものにすることに貢献し、20世紀を代表する彫刻家となったヘンリー・ムーア（1898～1986）は、日本で最も知られているイギリスの彫刻家といえるでしょう。彼は、独自の有機的な形態をもとにした、大理石やブロンズを使った大きな抽象彫刻で知られています。

ムーアは、彫刻をする準備のために多くのスケッチや素描を描いています。彼の彫刻のアイデアは、自然のオブジェ（頭蓋骨、流木、小石、貝殻）などに求め、そうした有機体の形からインスピレーションを得ていました。これらの素描は、彫刻だけでなく版画としても制作され、象の頭蓋骨を描いた『エレファント・スカル・アルバム』や、イギリスの古代遺跡をテーマとした『ストーン・ヘンジ』などの版画集が生まれました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ヘンリー・ムーア	『ストーン・ヘンジ』	1974	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
ヘンリー・ムーア	彫刻のための絵画的構想と設定	1939	グワッシュ、インク、鉛筆・紙
ヘンリー・ムーア	『スカルプチャー・アイデア』	1980	エッチング、アクアチント・紙 /ポートフォリオ
ヘンリー・ムーア	『エレファント・スカル・アルバム』	1970	エッチング・紙/ポートフォリオ
ヘンリー・ムーア	『オーデン詩集』	1973	リトグラフ・紙
ヘンリー・ムーア	座る人体：スカート		ブロンズ
バーバラ・ヘップワース	石柱（パヴァーヌ）	1953	油彩・パネル
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ウィリアム・ホーガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758～60頃	油彩・キャンバス
サー・アルフレッド・イースト	9月の陽光	1880～1906頃	油彩・キャンバス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ピーター・デ・ヴィント	ウィットビー		水彩・紙
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	箱根の秋		水彩・紙

展示室2 明治の東海道



亀井竹二郎
『石版『懐古東海道五十三驛真景』油彩原画』
から『二川驛 岩谷観音』

江戸時代に大きく発展した東海道でしたが、時代が明治へと変わった一時期、にぎわいが失われた時がありました。そんな明治初めの宿場の様子を、当時最新の技術であった油絵で描き留めた若い画家がいました。今から130年前の明治10（1877）年から翌年にかけて、画家・亀井竹二郎が現地を歩いて描いた油絵の東海道。この油絵をもとに明治24年から翌年にかけて制作された石版画『懐古東海道五十三驛真景』は、日本の石版画史における重要な作例のひとつとして知られています。

この油絵の原画は長く所在不明でしたが、平成6年に発見され当館に収蔵されました。明治の東海道ののどかな風景と江戸の香りの残る風俗をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
亀井竹二郎	石版『懐古東海道五十三驛真景』油彩原画	全53点 1877～78（明治10～11）	油彩・紙
石版『懐古東海道五十三驛真景』から			
「土山驛 松ノ尾川」「四日市驛 燈明臺」「桑名驛 渡口園」「鳴海驛 笠寺観音洞」「藤川驛 八幡山眺望」			
「赤阪驛」「二川驛 岩谷観音」「白須賀驛 潮見坂」「見附驛 愛宕山眺望」「島田驛」「吉原驛 曉霧望富士山」			
「原驛」「平塚驛 馬入川」「藤澤驛」「戸塚驛」「神奈川驛」「川崎驛 六合川眺望」			
		1891～92（明治24～25）	石版・紙

展示室3 郡山ゆかりの美術（彫刻編）



三木宗策

「威容抱慈（坂上田村麻呂像）」

郡山市出身の三木宗策は、大正から昭和にかけて官展の中心作家のひとりとして活躍した木彫家です。三木宗策には多くの弟子があり、須賀川市出身の柳沼曹雲、郡山市出身の本田晶彦や佐藤静司も三木門下で彫刻の修行に励みました。彼らは、伝統木彫の技術を習得しながら、新たな木彫造形を試み、具象彫刻のあり方を追求しました。佐藤静司は現在もなお新しい技法、要素を求めて制作を続けています。

三坂耿一郎は、東京美術学校（現：東京芸術大学）彫刻科に進み、人体のプロポーションを意識的に歪めるといった手法を取り入れた作品を数多く制作しました。作品からは規範に縛られない彫刻家の自由な表現を見て取れます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
三木宗策	威容抱慈（坂上田村麻呂像）	1924（大正13）	木彫
三木宗策	大葉子	1942（昭和17）	木彫
佐藤静司	獺	1936（昭和11）	木彫
佐藤静司	合掌	1986（昭和61）	木彫
佐藤静司	やすを持つ少年	1966（昭和41）	木彫
佐藤静司	フルーティスト	2000（平成12）	木彫
佐藤静司	街の詩	2006（平成18）	木彫
柳沼曹雲	陽	1964（昭和39）	石膏着色
本田晶彦	少年	1960（昭和35）	木彫
本田晶彦	裸婦	1964（昭和39）	木彫
三坂耿一郎	女童（めわらべ）	1974（昭和49）	ブロンズ
三坂耿一郎	まとう	1967（昭和42）	ブロンズ
●斎藤清生誕100年記念特別展示			
斎藤清	作品		木版・紙
斎藤清	作品		木版・紙
斎藤清	HANIWA(2)	1951～54（昭和26-29）頃	木版・紙
斎藤清	珊瑚	1955（昭和30）	木版・紙
斎藤清	AWAJI DOLL(1)		木版・紙
斎藤清	青沼、裏磐梯、会津	1955（昭和30）	木版・紙
斎藤清	ノートルダム、パリ	1974（昭和49）	木版・紙
斎藤清	MEDITATION 黙想	1969（昭和44）	ドライポイント・紙
斎藤清	ヌード(A)	1969（昭和44）	ドライポイント・紙
斎藤清	ヌード10	1964（昭和39）	コラグラフ・紙

萩原巖氏寄贈

佐藤静司氏寄贈

佐藤静司氏寄贈

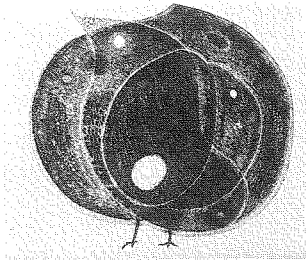
佐藤静司氏寄贈

柳沼曹雲氏寄贈

本田悦久氏寄贈

本田悦久氏寄贈

展示室 4 ①版で発信する作家たち

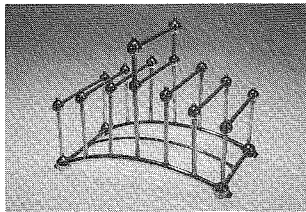


駒井哲郎「鳥と果実（小）」

日本人にとって馴染みの深い版画の代表は、広重や北斎などの江戸期の浮世絵版画でしょう。木版による浮世絵版画は、絵師、彫師、摺師たちの分業によって制作され、版元から世に出されていました。日本の版画界に大きな変化が訪れたのは、明治30年代。作者自身が原画を描き、彫りも摺りも一貫して手がける「版画」が生まれたのです。そして、版画による造形表現を志す版画家が登場しました。現在、版画家たちは多様化する版技法を研究しつつ、豊かな造形性や詩情、あるいは社会に対するメッセージを発信し続けているのです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
駒井哲郎	鳥と果実（小）	1959（昭和34）	エッチング、アクアチント・紙
駒井哲郎	花とレモン	1974（昭和49）頃	モノタイプ・紙
浜田知明	少年兵哀歌（山を行く砲兵隊）	1953（昭和28）	エッチング、アクアチント・紙
浜田知明	アレ・・・	1974（昭和49）	エッチング、アクアチント・紙
浜口陽三	黒いさくらんぼ	1963（昭和38）	メゾチント・紙
浜口陽三	西瓜	19681（昭和56）	メゾチント・紙
池田満寿夫	空の寝台	1969（昭和44）	ドライポイント、エッチング、メゾチント・紙
加納光於	“How to fly”の偏角に沿って 『sq』 版画より	1974（昭和49）	レリーフプリント・紙
中林忠良	転位 '90-地-I	1990（平成2）	エッチング、アクアチント・紙
斎藤寿一	波と月（B）	1964（昭和39）	ディープエッチング・紙 斎藤玲子氏寄贈
愛籬	中間子炉	1966（昭和41）	シルクスクリーン・紙
泉茂	ほらふき	1958（昭和33）	リトグラフ・紙
オノサトシノブ	66-B	1966（昭和41）	リトグラフ・紙
吉田穂高	私のコレクションより 一白い家、N	1982（昭和54）	木版・紙
吉田穂高	私のコレクションより 一坂道の家、P.M.	1982（昭和57）	木版、亜鉛凸版・紙
東谷武美	沈む夜	1991（平成3）	リトグラフ・紙

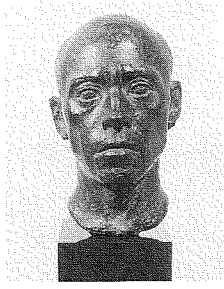
展示室 4 ②モダン・デザインと生活



クリストファー・ドレッサー
「トースト・ラック（楕円形）」

私たちは日々ものを使い、ものに囲まれて暮らしています。現代は大量生産・大量消費社会でもものの均質化がすすみ、安価で入手しやすい日用品が巷に溢れています。イギリスのデザイナーであるクリストファー・ドレッサー（1834-1904）は、廉価な材料を使った日用品のデザインを手がけました。実際に使われる事を想定したデザインは、機能性を兼ね備えつつ、同時に生活をコーディネートする豊かで洗練されたものとして、現在でも新鮮さを失っていません。工芸作品の魅力は、生活に根ざした美しさ、「実用性の美」が、独創的なデザインとうまく調和したところにあるのではないのでしょうか。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	デカンター・セット（栓付き細首ぶどう酒瓶）		ガラス、金属金具、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	ダブル・バスケット（円形）	1880	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレット・ジャグ、黒檀把手（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属金具、銀金具
クリストファー・ドレッサー	クラレット・ジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	日本風把手付き薬味入れ		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	三角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	六角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	蓋付きスープ入れ		金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル（サーバー付き）	1879-72頃	陶器、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（楕円形）		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（ポイントアーチ型）	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	銀製ティーセット	1885	銀、象牙、金メッキ
クリストファー・ドレッサー	ミルク入れ	1880	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	シュガー・バスケット（穴あきふりい付き）	1884	金属、銀メッキ
クリストファー・ドレッサー	蓋付きバスケット、黒檀製把手		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	ケトルとスタンド		銅、真鍮、銀鍍
クリストファー・ドレッサー	『デザイン研究』	1874-76刊	
クリストファー・ドレッサー	『装飾デザインの原理』	1873刊	
クリストファー・ドレッサー	『装飾デザインの芸術』	1862刊	
クリストファー・ドレッサー	『日本-その建築、美術、工芸』	1882刊	
クリストファー・ドレッサー	色絵草花模様隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色柄花模様大皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色柄花模様隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色柄花模様長皿	1886	陶器
ベン・ニコルソン	水さしと楕円形	1973	オイルウオッシュ・紙
ベン・ニコルソン	ワン・イン・ワン	1978	ミクストメディア・紙



菊池一雄「自刻像」

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階展示ロビー				
アントニー・ゴームリー	量子雲ⅩⅩⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域ⅩⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
●1階サブエントランス				
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
●2階展示ロビー				
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1・2		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	寄託作品
菊池一雄	自刻像	1947(昭和22)	ブロンズ	
清水多嘉示	フランスの女	1927(昭和2)	ブロンズ	
細川宗英	道元	1972(昭和47)	ブロンズ	
堀内正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント	
●屋外				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。